

ほたる

きよきよ小さき

橋のたもと

ほたる飛びかふ

みやこに知らぬ

聲もしどろに

五人みたり

ほたる来よこよ

つめたき水も

露けきあまき

さびしき野邊は

花さく園に

つねを

里川の

夕まぐれ

うす闇の

すいしさを

うたひゆく

子供等と

やよほたる

こゝにあり

草もありと

星にまかせ

つとひきて

あそぶ木かげに

月いでぬ

一朝の樂しき

楓

八月一日朝またきへ一年中の骨やすめにと、古郷の家にある私の、他に爲すべき務もなく、否なきにあらねと、朝な〜四人の弟をつれては山又は海の邊をそゝろありさする、これせめては身体健康にもと心掛けたのである。今朝しも下り松に出かけた、此處は大坂通ひの流船の着く處で、丁度下り船かゝると見えて、二三輛の車か別に着させず、石斗りの道をころ〜とねむげな目をして、揖捧につかまる東夫は、問屋の方にゆいた。

海は一面の潮きりで、遠きも近きも淡き衣を被つたようにとんやりして居る、満ち来る潮は幾千